（様式１）

令和６年度　学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立吾嬬立花中学校
校長名	佐藤　順一

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から

成　　果	課　　題
（中１） ・知識を問う形式の問題は解けている。 （中２） ・知識技能の観点は目標値に近い平均正答率である。 ・平均正答率が国語は目標値より２．１、英語は０．５高かった。 （中３） ・数学は全国平均を＋３．５上回った。 ・理科は前年度校内平均を＋７．７上回った。 ・国語は前年度校内平均を＋０．２上回った。 ・英語は聞くことの正答率が高かった。 ・社会は歴史分野で、全国平均を＋１．１上回った。	（中１） ・全教科において、読み取る力と説明する力が弱い。 （国語の自分の考えを書く問題は正答率が良い） ・社会と数学では、活用を問う問題が目標値を超えていない。 （中２） ・全教科において活用問題での平均正答率が目標値に達していない。 ・自分の考えを書く問い（英作文等）の平均正答率が目標値より３．３～６．９低い。 ・数学と理科では計算を用いる分野で平均正答率が目標値より最大２３．１低い。 （中３） ・理科は「粒子」が特に低く、全国平均を５．８下回った。 ・国語は「言葉の特徴」が特に低く、全国平均を３．７下回った。 ・英語は「読むこと」が特に低く、全国平均を６．２下回った。 ・社会は「地理」が、全国平均を１１．２下回った。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・授業の中で話し合い活動や意見交換の場面で自分の考えを表現したり、他の考えを聞いたりする活動の時間があると肯定的に答えた生徒が約９５％であった。 ・学校のあらゆる場面で、他の生徒の良さを見つけ、共に生活する仲間としておもいやりを持ちながら生活しているに肯定的に答えた生徒が約９０％であった。	・学校で導入したスタディサプリを活用している生徒が、約半数にとどまっている。 ・学校や地域が提供する交流活動やボランティアに参加し、多様な人と関わり、社会の一員として貢献しようとしている生徒が、約半数。

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況（到達度テストより）

成　　果	課　　題
（中１） ・理科と社会は都標準を約２上回っている。 ・数学では、授業のはじめの計算練習の成果もあり、比較的正答率が高い。 ・英語では、日頃の授業での歌やリスニングなどの成果で、リスニングの結果が出ている。 （中２） ・前回の校内都標準平均と比べ、国語は＋4.5 と大幅な伸びがみられた。 ・全教科において、反復学習や復習を取り入れたことで知識の定着がみられている。 （国→漢字や文法、数→式の計算、英→文法、社→鎌倉幕府、理→動物の分類） （中３） ・小問集合や基礎的な知識を問う問題、音声を聞く問題等の正答率が高い。授業の帯活動での取り組みや反復練習、スタディサプリでの演習等が成果となって現れたと考えられる。	（中１） ・国、数、英において、読み取る力が弱い。（国→文学的文章の読解、数→空間図形、割合、速さ、英→場面に応じた表現） （中２） ・社会、理科は、習ってから時間が経過した分野の正答率が低い。（社会はオセアニア州、理科は凸レンズ） ・国語、英語は読解や英作文の分野で正答率が低い傾向がみられる。考える力、粘り強さを培っていく必要がある。 （中３） ・国語を除き、得点分布が二峰性または右側に歪んだグラブになっている。学力の定着度が懸念される。 ・多くの教科で、記述式の問題の正答率が低い傾向にある。

２　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）説明する力・読解力の育成

・普段の授業から、説明する力をつける内容を取り扱う必要がある。
・読み取る形式の問題になれていく必要がある。

（２）繰り返しの問題演習

・授業時間内で問題演習（アウトプット）の時間を確保する。

（３）家庭学習との連携

・家庭学習と連携し、繰り返しの問題演習を行う。
・スタディサプリや問題データベース等を活用し、問題を解く機会を増やす。

３　「令和７年度　墨田区学習状況調査」における目標

（１）目標

・全員が現状よりも、２、３問多く正答することができる力の育成。
・DE 層３割減。